

(6) 東海



東海地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)

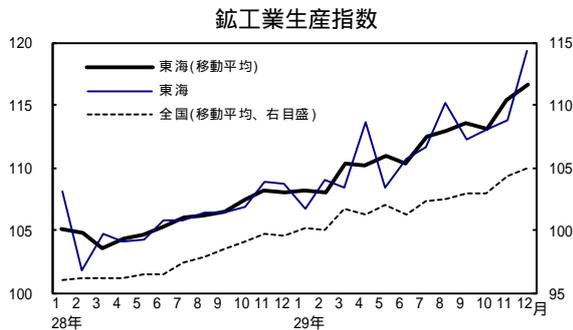
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 11 月)	今回 (平成 30 年 2 月)	
住宅建設	減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

10 - 12 月期には、「輸送機械」は、海外向け乗用車、自動車部品等が好調であることから増加した。「電子デバ、電気・情報通信」は、減少した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、増加した。「汎・生産・業務用機械」は、金属工作機械が好調であることから増加した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、鋳鍛造品等が好調であることから増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	35.2	0.0	5.4	2.9	1.1	8.2
電子デバ、電気・情報通信	19.7	7.6	0.4	0.5	2.5	2.8
石油・石炭製品、化学、プラ製品	14.9	1.4	0.5	2.0	1.6	2.6
汎・生産・業務用機械	8.9	2.0	0.5	3.5	0.0	5.7
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.0	2.2	1.8	5.2	5.2	4.3
鉱工業	100.0	1.9	2.1	0.7	0.6	4.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

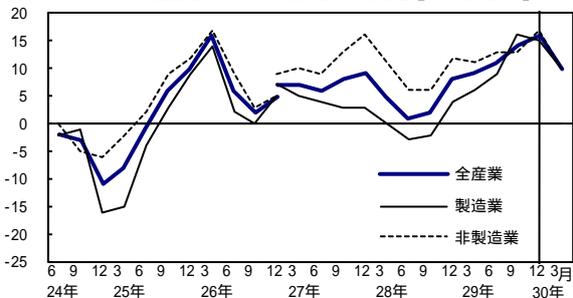
2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

- (備考) 1. 22 年 = 100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。
3. 東海は内閣府にて算出。

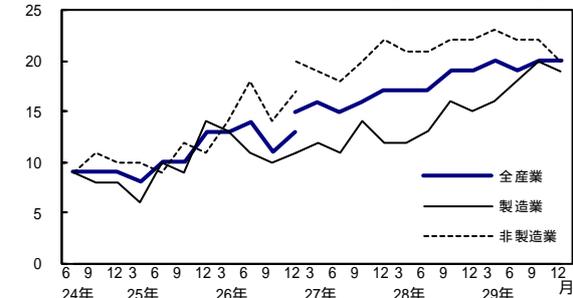
(2) 日銀短観における名古屋支店管内の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
 静岡支店管内の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

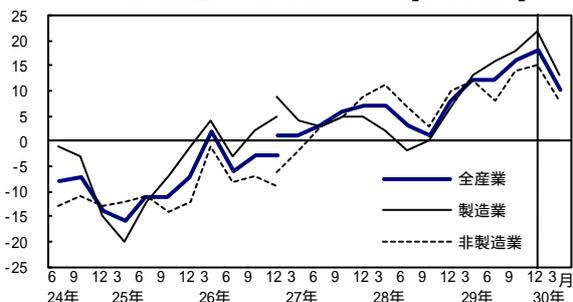
(%ポイント) 名古屋支店 企業短期経済観測 [業況判断]



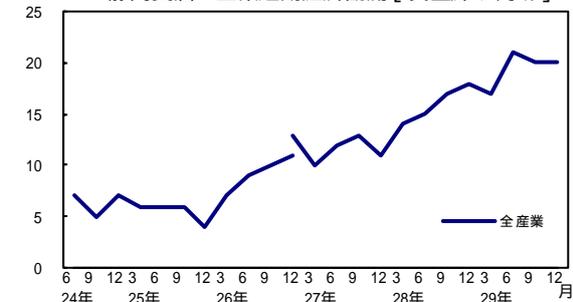
(%ポイント) 名古屋支店 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(%ポイント) 静岡支店 企業短期経済観測 [業況判断]



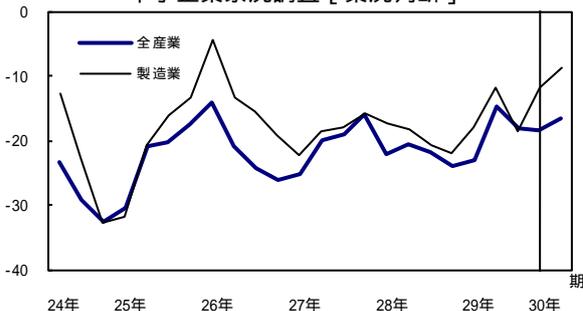
(%ポイント) 静岡支店 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年3月は予測。
 26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
 26年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



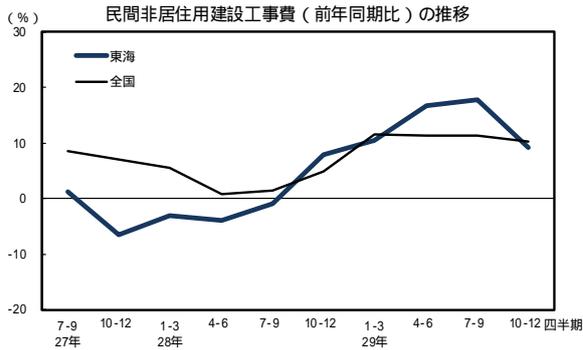
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「中国向けの輸出需要が好調である。旧正月を控え、前倒し需要が多い(化学工業)」などの回答がみられた。

(6) 東海

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて増加している。



(備考) 29年4 - 6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]
(前年度比、%)

	28年度実績	29年度概
全産業		
名古屋支店	6.7	10.8
静岡支店	0.5	13.3 (0.9)
製造業		
名古屋支店	2.6	12.5
静岡支店	0.1	22.4 (1.8)
非製造業		
名古屋支店	11.7	9.0
静岡支店	1.2	2.5 (0.5)

(備考) 1. 22年度以降は、計画はリース会社対応ベース。
2. ()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.7%減、11月は同2.8%増、12月は同1.7%減となった。

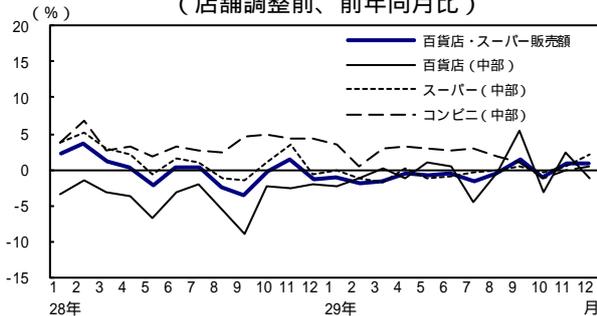
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、高額品に動きがみられたものの、台風による影響もあって衣料品や飲食料品が振るわなかったことから、前年を下回った。11月は、催事による効果に加え、気温の低下もあって冬物衣料に動きがみられ、高額品の動きも継続したことから、前年を上回った。12月は、高額品の動きが継続したものの、衣料品が振るわなかったことから、前年を下回った。スーパーは、10 - 12月期は、衣料品が振るわなかったものの、飲食料品に動きがみられたことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「インフルエンザの流行や雪の影響で、多くのキャンセルがある(美顔美容室)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	29年10-12月	29年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.1	0.7	2.8	1.7
百貨店・スーパー(*2)	0.3	1.0	0.8	1.0
百貨店(*3)	0.6	3.1	2.4	1.1
スーパー(*3)	0.8	0.3	0.5	2.0
コンビニ(*3)	0.3	1.2	0.2	0.5
乗用車(*4)	0.2	3.1	0.6	2.8
(季節調整値)(*4)	0.7	5.3	5.3	3.9

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

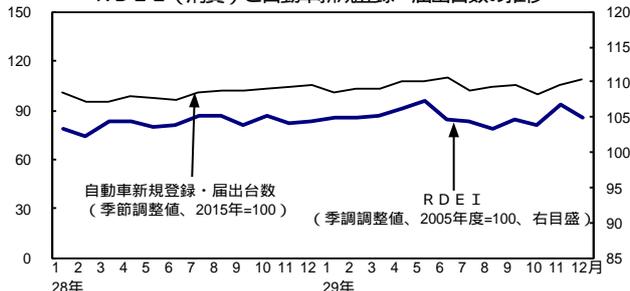
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

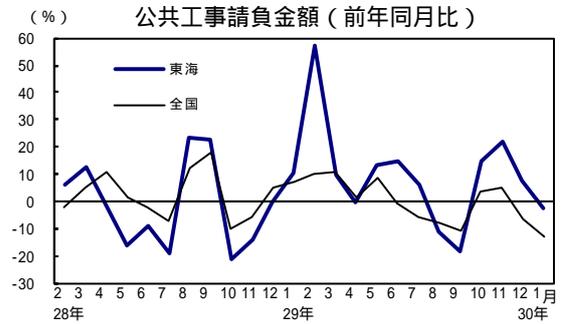
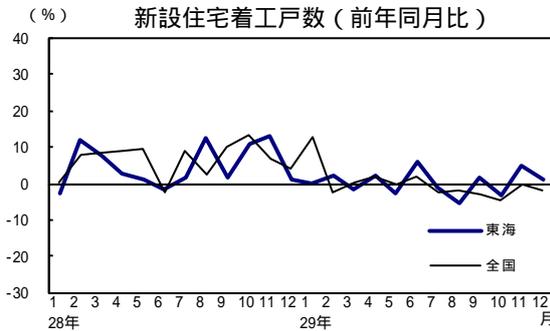
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

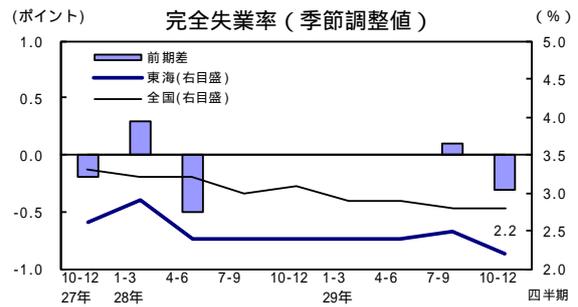
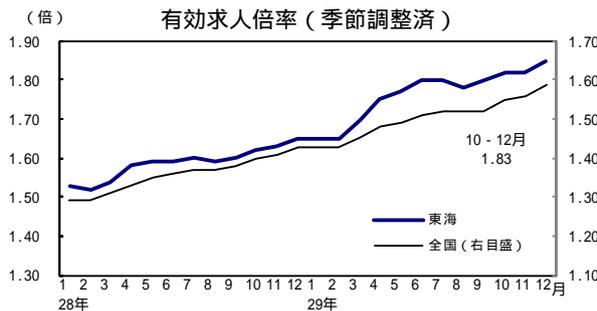


- (2) 住宅建設は前年に比べておおむね横ばいとなっている。
分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。
- (3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



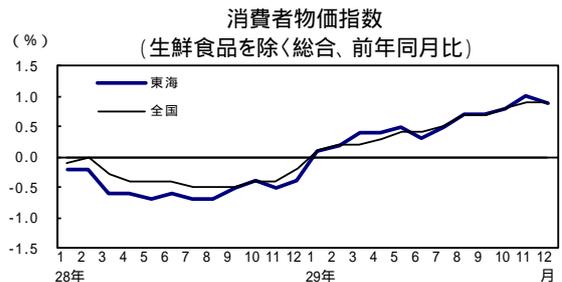
景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[雇用関連（現状）]

「当社エンジニア全体の稼働率は前月に続き 99%を超えている。当地域の製造業では設計開発の業務量が高水準を維持し、予算もつきやすい状態である。3か月前との比較では、稼働率としては微増であり、景気の状態としては変わらない（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は前年に比べて件数は増加しているものの、負債総額は減少している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	30年1月
倒産件数	238	264	253	271	86
(前年比)	2.5	2.6	0.4	3.4	38.7
負債総額	428	419	419	377	290
(前年比)	10.9	21.6	28.5	12.6	179.2



(6) 東海

景気ウォッチャー調査（1月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・年末から急に寒くなって暖房器具がよく売れている。売上が良くなっているのは気候の影響が大きい（家電量販店）

<先行き>

- ・折込チラシの件数が減少している。少し離れたところに大型ショッピングセンターがオープンしたが、以前なら確実に入った折込広告が入らなかった。広告を出す地域をかなり絞っている（新聞販売店〔広告〕）

